

心は一つ京都の



片岡製作所

片岡 宏二社長

グローバル展開に拍車

大震災が御社および市場に与えた影響は、設備調整など被災された顧客に対する支援はほぼ完了した。一方、レーザー発振機を構成する半導体などの部品達では納期遅延を避けるため

モノづくり力、

次代の戦略
経営者3氏に聞く

イシダ
石田 隆英社長

足元の受注状況と今期の見通し。
「震災直後は被災した顧客から機械のオーバーホールを託された最優先で底打ちを始めたが、加工現場では油や蒸気加熱による対応した。今期はさらに展開を加速する」

業界に求められる顧客ニーズは、「食の安全・安心に対する意識が世界的に高くなっている」とればX線食品検出装置は、ウォルマートやカルフープマーケットが取引業者に導入を求めるなど

(使用が)絶対条件にな

期限を危惧したが、問題なく推移している。たん止まつた。この間、約2カ月。当社では国内

で拡充を進めてきた生産体制を有効に使い、停止していた期間の生産分を下半期に振り分け増産する体制を指示している。レーザー発振器および光

学系関連装置を自社で開発を行って現地ニーズを探していく

東日本大震災は、サプライチェーンの寸断や原発事故に伴う電力不足の影響など、わが国経済のさまざまな弱点を浮き彫りにした。一方、世界に広がる生産工場へ供給される重要な部品の多くが日本製であり、一部の出荷停滯が世界経済に大きな影響を及ぼす実態を垣間見た。また、技術や製品、材料において日本が担う役割の大ささを再認識させた。そして今、震災からの復興という課題を前に、京都企業に大きな期待がかっている。

京都の企業は、いかなる環境の変化にも産業界を支え、その原動力であり続けてきたさらこの地のモノづくりは、独自の技術と顧客ニーズに応える付加価値の創造により、時代の進化をも助けてきたからだ。そこで京都のモノづくりをリードする各産業界の社長に今後の展開を聞いた。

東日本大震災は、サプライチェーンの寸断や原発事故に伴う電力不足の影響など、わが

国経済のさまざまな弱点を浮き彫りにした。一方、世界に広がる生産工場へ供給される重要な部品の多くが日本製であり、一部の出荷停滯が世界経済に大きな影響を及ぼす実態を垣間見た。また、技術や製品、材料において日本が担う役割の大ささを再認識させた。そして今、震災からの復興という課題を前に、京都企業に大きな期待がかっている。

京都の企業は、いかなる環境の変化にも産業界を支え、その原動力であり続けてきたさらこの地のモノづくりは、独自の技術と顧客ニーズに応える付加価値の創造により、時代の進化をも助けてきたからだ。そこで京都のモノづくりをリードする各産業界の社長に今後の展開を聞いた。

受注拡大へ生産効率化

トクデン
北野 良夫社長

「手作から当社の誘導発熱(IH)式ロールによる電気加熱への転換が進む。特に三洋電池や太陽光など新エネルギー関連投資は、中長期で省エネ化は促進され、IHは効率を発揮します。」

「各種ロール製品をメッシュに製造するマキノ工場(滋賀県マキノ町)の生産能力を拡充する現状で2棟半の生産ラインを年内には3棟へ増設。」

「自動車関連のほか高品質の日本製の機械は、まだ、震災発生により国内

で生産効率化を加速して販売を強化したい。今後注目する地域や

「各種ロール製品をメッシュに製造するマキノ工場(滋賀県マキノ町)の生産能力を拡充する現状で2棟半の生産ラインを年内には3棟へ増設。」